

通 信
同 舟
16 8
7 月 号
府中稲城不動産 取引業組合

定例七月理事会開催

一 時 七月八日午後五時半

一 ところ ダイワ不動産

一 出席者 山村、小林、内山、辻、結城、

高野、加藤各理事

オブザーバーとして中山三多摩

連合会長

要領次の通り

A 報告事項

(1) 新潟地震義捐金の件

新潟地震に対する義捐金は希望者をつのりたる結果五千四百円がまとまりたるをもつて直ちに連合会に送金方を委託した旨山村理事長より報告あり

B 協議事項

(1) 連合会業務担当部員選出の件

連合会より各業務担当部員選出方申出あり、よつて本理事会に於て次の者を選出することに決定した。

- ・企画部長 加藤武、
- ・同副部長 成沢辰雄

同部員 小池伝

・報道部員 高野豊次、角田清

・業務部員 内山一壱

・厚生部員 榎峠優

・指導部員 結城等、吉田末吉

・調査部員 石黒善彌、吉野亥之太郎

・青年部員 加藤友三郎、平井進二郎

(2) 業法改正に依る説明会の件

今般業法改正に伴い各新聞社に於て説明会を開催につき出席するか否かを理事長より諮りたる所これに対し連合会長より三多摩連合会に於ても説明会を開催予定の旨発言あり

(3) 月掛預金の件

組合員が無尽を実施するの件は検討の結果各種支障あるをもつて内山理事より月掛預金をしては如何との提案あり全員これに賛成した。要領次の通りであるので賛成の方は担当理事に至急に申し込まれたい。

・毎月の領金額は一人概ね五千円を目標とする。

・掛金の三倍を限度として貸付け可能の見込

・借入れの場合は二名の保証人(この預金組合の預金者たるを要す)を必要とする。

◎ 物件紹介

物件を紙上紹介致します。ふるつて投稿願います。紹介例

場所	区分	数量	単価	金額	連絡先	備考
府中本宿	宅地	五〇坪	四〇〇〇〇円		〇〇不動産	分倍駅より十分
立川錦町	宅地	一五〇〇坪		10,000,000	〇〇不動産	立川駅〇分
府中中河原	建売	二十五坪		1,600,000	〇〇不動産	高級住宅地
	土地	二五坪			〇〇不動産	中河原駅〇分

府中の古事を尋ねればいろいろとあるが、なかでも樺並木と大國魂神社がその古事中之古事である。株式会社大國不動産は恰もそれに因むが如く店は樺並木に、店名は大國であるので、色々の意味に於て地の利を得たものといわざるをえない。社長加藤嘉重君は品川区小山町の生れ本年三十五才の働き盛りでいつも不思議に笑顔の持主である。店員は六名だが所謂大國システムにより人の対応は物やわらかく決して人をそらさぬよさがある。そしていかなる来客にせよ全員笑顔を忘れぬところに店の繁栄があるのかもされない。彼は帝京商業卒業後法政大学政治経済科に学んだというから多分大政治家にでもなる野望があつたかもしれないが中途志を変え日本不動産学校を卒業、この業界に入つた。従つて業者としては将しく十年選手である。尤もこの十年間に大國の流れをくんで店を開いた者が「入店」あり「えびすや」あり「調布土地」ありで更らに実際の兄弟会社としては紀の国屋不動産があるこれらは何れも大國出身者であり今日大いに活躍している一員でもあるので彼にとつては洵に心強いものがある。氏は八十キロの巨軀で剣道五段というから夜道には決してこわくないとしても珠算二級は体に似合はぬ器用さである。ムシ風呂で万病を治癒するのが趣味、家庭は夫人のほか三男二女の大家族である。もつて自重自愛を望む。

北陸は俱利伽羅峠の戦いで一敗血にまみれた平家一門は山を越え谷を渡りそしてあてもなく道なき山野を跋渉して漸やく辿りついてたのが奥飛騨！もうこのあたりまで逃げ伸びれば大丈夫と家を建て山畑を開いて安住の地としたのがあの平家の落人で有名な白川郷である。

今白川郷を地理的に見ると福井、石川、富山の県境を走る白山山系を境として南に展開する全くの山又山で岐阜県の最奥部、あの飛騨の「たくみ」で有名な飛騨高山より更に十五里もへだてた秘境の地である。

筆者は今を去る三十年の昔、この地に住すること三年、あらゆる事物を体験しそして見聞を深めた者の一人であるのでその秘境の一端を茲に紹介して見たい。御一説を賜はればこの上もない幸である。

さて奥飛騨の大家族制と言へば合掌建を、合掌建と云えば必ず秘境を連想する白川郷であるが一体大家族制というものがどうしてこの山岳地帯に出来上つたのかこれを先づ解明することにする。

勿論文化の進んだ今日では、こうした家族制はいつとはなく火の消える様にして皆無とはなつたがそれでも明治の末期までは完全に実行してきた因襲で一戸の家四十人五十人も同血族がビルディングの様なあの五階建の合掌作りの家の中で同居したと伝えられ筆者在住した昭和の始めですら尚三十余人の同族が一棟の下に同居し且つ生活しておつたのであるからその様想たるや将に壯観でもあり神秘奇感でもあつた。

そこで大家族制の組織と言つた様なものについて若干ふれてみることにする即ち男系の男子である長男は家長と称して唯一人妻帯が許され一族を統率するが家長の姉妹実弟は勿論家長の伯父伯母その他一連の血族更には生れ来るものゝすべてが単なる家族の一員でこれらの者はすべて嫁にも婿にも行くことなく又分家も許されずして終生家長に追従隷属して食う丈に生涯を終る大きなおきてがあつたからである。

尤もこうした非人道的なことが何の不服もなく公然と行われるに至つた真因は色々あるが要するに限られた僅かな田畑を基礎として家族一人一人に嫁だ婿だ分家だと分離されては主家そのものの財産が分散し共倒れとなる虞れがあるのと、うかりか各自が思うままに都へ鄙へど出奔すれば敵である源氏方に殺害せらるる虞から止むを得づとつた同族防衛策に外ならない。従つてここに生れた一族は生れ乍らの運命をどうすることもなく唯因果の一語によつて淋しくも悲しい諦めの生活を送るより他に途がなかつたものとも言えよう。

然し乍ら如何に因果とは言え人間衣食住のみでは決して満足出来るものでなく年頃ともなればそこに自然と湧く性への本能！これは相手なくしてどうすることも出来ない痛切な問題である。このはけ口をどこに求め如何にして解決して行つたかは？ それは次号に

環流

組合はみんなの組合であつて特定の人の為の組合でない。唯当組合の如き直接各自の利害に関係のうすい組合程すべての案件は理事者まかせとなり従つて組合員と理事者が隔離するうらみなきにもあらずである。

尤も組合の直接の運営は理事者にあるので一から十までこれを組合員に相談することとはどうかと思うがそれだけに理事者は組合員を代表するものとしてそこに聊かの私心があつてはならない。若しそれ自信過剰という様なものが独善と結びつくことがあるとしたらそれは大いに反省を必要とし苟くも組合は特定の人に言うべきでも又持つべきでもない。

通信紙の読み方

頭の赤くなつたのを赤面(セキメン)の至りというがこれを赤面(アカメン)の至りと読んだ人がいる。通信紙同舟(ドゥンユウ)も時折同船(ドゥセン)と読む人がいる舟は舟でも趣きを異にするので同舟(ドゥンユウ)と読んでほしい。

紙上拝借

私こと去る五月十五日軽い脳卒中にて就床の節は組合より過分の御見舞を頂戴し有難く厚く御礼申し上げます。お蔭をもつて所謂中風も日を追つてよくなりつつあり然し今もつて右手が聊か自由でないので通信紙の原稿の如きは主として家内に筆記作成させる仕未で手数を要しますが近く全快の見込です。何卒御安心下されたく右紙上拝借御礼。近況御報告申し上げます。

昭和三十九年七月九日第三号を編輯するに当つて編輯者高野拜